

ProjectFUJIYAMA 今後の方針

2009/1/1

公開

はじめに

1965年以来、わずか11人から始まったプロビリヤード団体が、40年余りで約300人の構成員を抱えるまでに成長してまいりました。この間、全国に通じる組織網を構築し、自助独立の道を切り拓いてきた、偉大なる先人の方々に深い敬意を感じるものであります。

何よりこの組織が素晴らしいのは、経済的に手弁当な状況であるにも関わらず、人生をビリヤードに託す覚悟をもった男女が300人も集っているという事実です。

これを会社に置き換えて考えてみれば、自分の給料が貰えなくとも他所で生活費を稼いででも自分の愛する仕事へ人生を捧げるために集い、一生懸命に戦う社員が300名もいるのです。もし私がこの会社の代表であれば、感動の涙を流し、こう確信するでしょう。「この組織をもって挑戦して、乗り越えられないことなど1つもない！」

現在日本にこれほどの情熱と忠誠心を持つ組織がどれほどあるでしょうか。

日本のプロビリヤードは、まさにこれから花開く時代を迎えようとしているのは間違いのないことであります。

このような素晴らしい組織を前提として現在の時代背景を鑑みるに、プロビリヤードもまた他のプロスポーツと同じくメジャー化を目指し、またプロスポーツとして青少年に夢と希望を与えるべく社会福祉に貢献できるような、新しいステージを目指す時期が近いのではないかと考えるものであります。

FUJIYAMAとは

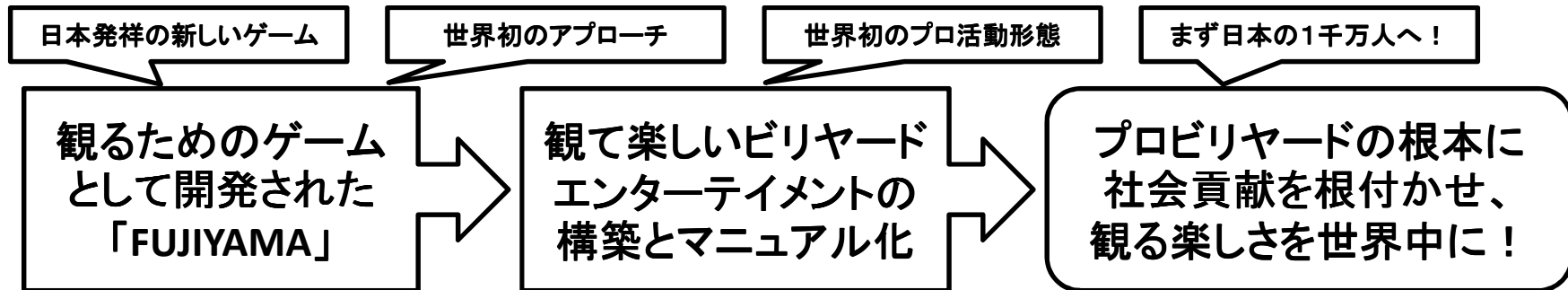
FUJIYAMAとは日本発祥のポケットビリヤード種目の名称です。
また今回、ビリヤード業界で新しい試みを行なうために作られた
エンターテインメント企画の総称をproject「FUJIYAMA」といいます。

この企画はビリヤード業界の夢、プロビリヤードのメジャー化のために、
完全に素人観客視点での楽しいエンターテインメントを目指しています。
つまり1～2回しかビリヤードをした事の無い素人が
手に汗を握り、息を呑み、歓声を上げるようなイベント。
プレイヤー視点の大会とは全く違った切り口で、楽しさにこだわります。

その全く新しい感覚と観客の反応に、皆様も新しい発見があると思います。

今回の企画提案について

今回の企画は
主に、プロビリヤードのメジャー化や興行化を目的とし、
外部団体であるProjectFUJIYAMA実行委員会が行うものです。



つまり、私達の目指すものは、以下の3行に集約されます。

「観る楽しさ」を最大限に広げ、
誰からも愛されるプロビリヤードの地位を作り、
世界中に広げること

本企画書は上記の活動に対する、ご理解とご協力をお願いするものです。

ぜひ本書を読んだ上で、ProjectFUJIYAMA実行委員会に関して忌憚ないご意見を頂ければと思います。

私たちの考えるビリヤードの方向性

現在までのプロビリヤード

オリンピック正式種目参加を目指し
スポーツを前面に出してアピール

さらに進化するプロビリヤード

エンターテインメント要素、社会貢献の
拡大によるメジャー化を目指す

現在までの全国ビリヤード場

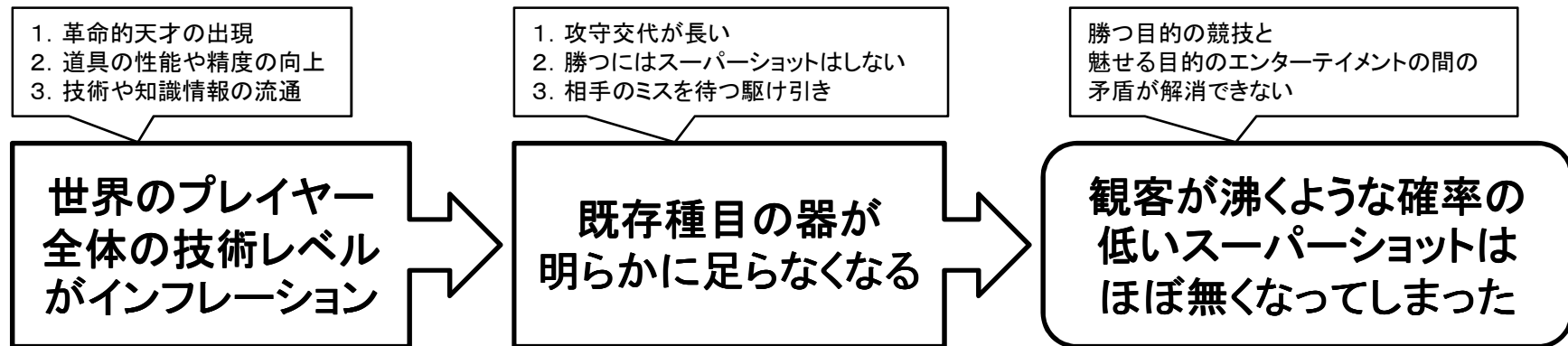
酒とギャンブル要素を排除の方向へ、
生涯スポーツ、世代超えるスポーツ
として、広い世代にアピール

さらに進化する全国ビリヤード場

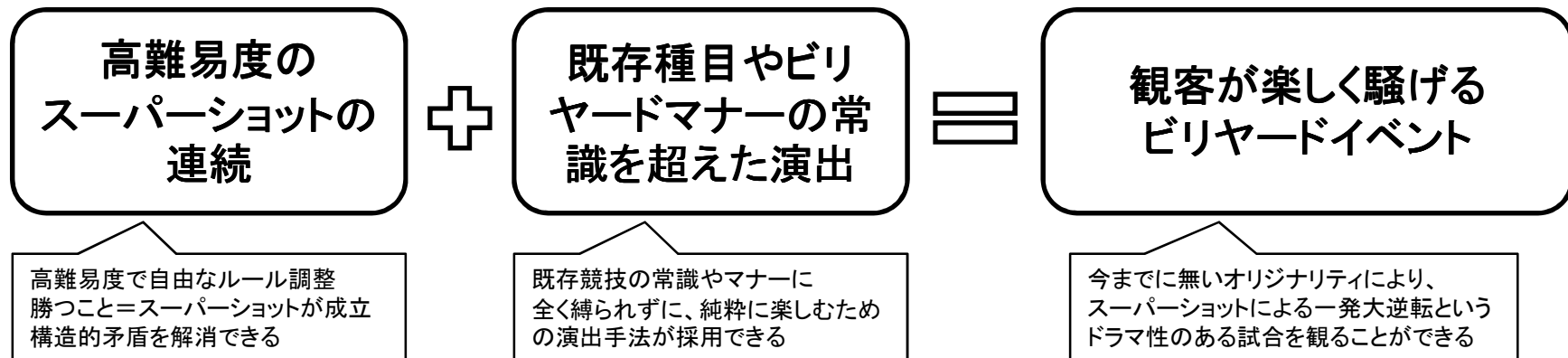
世代を超えるスポーツだからこそ、
貴重な人間関係を得る社交場的役
割を構築し、ビリヤード以上の様々
な価値を学び、得られる場所として
全国の青少年達の受け皿を目指す

なぜ「FUJIYAMA」が必要か？

FUJIYAMAは、ビリヤード>ポケットビリヤード>FUJIYAMA という、ポケットビリヤードに属する種目の1つです。
なぜこの新しい日本発祥のゲームFUJIYAMAが必要なのか？ それは競技の構造的問題から説明されます。



以上が、世界各国のプロビリヤードが抱える構造的問題です。
これに対する抜本的解決として、エンターテインメントに特化した種目を開発し、競技とは別の柱とする方法が考えられました。
そうして世界初のアプローチとして、日本で開発された種目がこの「FUJIYAMA」です。



ProjectFUJIYAMA実行委員会の 運営理念

ProjectFUJIYAMA実行委員会は以下の運営理念に従って行動しております。

1. 日本発のゲーム「FUJIYAMA」をもって、プロビリヤードのメジャー化を目指します。
2. FUJIYAMAを中心として既存権益から独立した運営体制、クリーンなイメージを堅持します。
3. スポンサー企業様からの提供以外にイベント内で利益が生じた場合は、その一部をチャリティに寄付するものとします。また、その寄付の対象は青少年の教育・育成および、災害支援に限るものとします。
(プロスポーツ選手の活動というものは青少年に夢と希望を与えるものでなくてはならないという考えから)
4. 日本発のゲーム「FUJIYAMA」と、日本における興行化ノウハウのソフトパワーをもって、
世界のビリヤード界へ進出し、同様に世界各国のプロビリヤードのメジャー化を目指します。
5. 日本におけるFUJIYAMAによる興行化が成功し、各国プロ団体(日本ではJPBA「日本プロポケットビリヤード連盟」)の受け入れ態勢が整った場合、各国プロ団体へ興行部分を移管していくことを目的とします。
6. エンターテイメントビリヤードゲーム「FUJIYAMA」は観客に次のイメージを与え、感動をさせます。

・創造力溢れる知性
・不屈の闘争心

・精緻を極める技術力
・芸術的な運

・奇跡を生む集中力

これらイメージに共感する部分や合致する部分がある、またはクリーンなイメージを大切にする企業様にのみスポンサーをお願いしております。

(なお、ギャンブル、パチンコ、たばこ及びマルチの販促広告を目的とするスポンサーはお断りします。)

ProjectFUJIYAMA実行委員会の目指す 「メジャー化」の定義とは

ProjectFUJIYAMA実行委員会は目指すべきプロビリヤードの「メジャー化」を以下のように定義付けております。

「メジャー(major)」という単語をとればその意味は、
大きなこと。一流であること。よく知られているさま。有名であるさま。(大辞林)であります。
具体的に言えば、多くの人が観戦に訪れ、テレビ中継され、少年少女が憧れるようになる、ということです。

しかし、プロスポーツビジネスにおいて、ProjectFUJIYAMA実行委員会はこの比例関係を信じております。

社会的貢献の大きさ＝規模や知名度の大きさ

例とするならば、プロレスやプロ野球選手は、高度成長期の時代、大人から子供まで皆の憧れる英雄であり、プロサッカーは現代において多くの国民が一致団結して応援できる祭り(ワールドカップ)を作りだしました。

以上からProjectFUJIYAMA実行委員会が目指すところは、拝金主義的商業活動ではなく、
プロビリヤードを通じた、考える限り、出来る限りの社会貢献活動を作り出し、拡大させていくことです。
そしてどのようなプロスポーツ選手も自らの活動をもって青少年に夢と希望を与える存在になるべきです。

プロビリヤードによる社会貢献活動が、まさしく「メジャー(major)」になり、日本中隅々まで行き渡ることで、
これこそプロビリヤードが日本において規模や知名度においても「メジャー化」されたと定義しています。

現在までの活動

■試行期間(2007年からの「2ヵ年計画」)

2007年度から2008年度まで2期の間、様々な実験や実績作りが行われてきました。

- ・プロジェクトFUJIYAMAのコンセプトワーク
- ・公式ルールブックの製作
- ・The OPEN FUJIYAMA CHAMPIONSHIPの開催(2007、2008)
- ・プロプレイヤーの招致、参戦
- ・プレイ時間短縮のための様々な施策
- ・ビリヤードマガジンキューズやホームページなどを通じた告知活動
- ・インターネットでの動画配信
- ・DVDの製作および配布
- ・観戦スタイルの実験、確立
- ・観戦グッズの製作

■ここまで獲得したもの

- ・スポンサー獲得のための営業資料
(大会実績、ルールブック、雑誌掲載記事、DVD、ポスター、各種グッズ、協力団体資料)
- ・エンターテインメント性の確信
(プロプレイヤーのゲームをみて、「観客が見て面白いものにできる」という確信ができた)
- ・業界内での認知度や賛同者
(多くの業界人、プロプレイヤー、観客から賛同の応援を頂くことができた)

今後をどうするべきか

■ ProjectFUJIYAMAの方向性

ProjectFUJIYAMAは当初から2年間と期限をおいて、その後の計画を再構築する予定となっておりました。2009年以降のProjectFUJIYAMAをどのような方向性とするべきか、再検討するにおいて、大きくふたつの道がありました。

■ 現状維持路線

ProjectFUJIYAMAは非営利活動とします。

有志の資金の続く範囲で、今までと同じ規模の大会を年1回開催することを目標に細く続けていく方針を現状維持とします。

見通しとしては、時代が追い付いてくるまで地味に我慢して続けていくことで、10年以上続けていくと芽が出る可能性があると考えられます。

個人の資金に頼っているので、突発的に潰れる可能性があり、また継続できなければ廃れて終わる可能性も十分にあります。

■ 拡大公開路線

ProjectFUJIYAMAは営利活動とします。

広く資金を募り、また人材も公に募集して、新規大会設立や入場チケットやグッズやDVD販売、広告スポンサー獲得によって商業化し、利益を目指していく方針を拡大公開とします。

ProjectFUJIYAMAに外部の協力者も多く招き、資金や仕事に応じて株式のような協力口数を付与し、利益が出た場合には還元を目指します。

見通しとしては、黒字化成功が3年以内にできないと、その3年間をもってプロジェクトが終了する可能性があります。外部の協力者を広く募るため、相対的に経営の自由度や発言権は低下し、各人が請け負った仕事に対する責任を明確に負わなければなりません。

■ 結論として、私達は拡大公開路線に舵を切りました。

Project推進マイルストーン

正しく手順を重ねて商業化を進めていく

- 現在までに獲得したもの
 - ・スポンサー獲得のための営業資料
 - ・エンターテインメント性の確信
 - ・業界内での認知度や賛同者
- 第三期(2008年末~2009年末程度)
 - エンターテインメント的演出方法の改良とマニュアル化
 - スポンサー獲得
 - 英語版ルールブックなどの導入、アメリカでの告知
 - 海外の有名プレイヤー招致
 - CSでのテレビ放映
 - 収益体制構築
- 第四期(2010年)
 - メジャーメディアにニュースリリースが常に流せるような体制の構築
 - アメリカでのFUJIYAMA大会開催
 - 新規大会の立ち上げ
 - 収益源の拡大
- 第五期(2011年) → **この年度で黒字化**
 - 優勝賞金100万円以上の大会を開催
 - 海外からの逆輸入によるFUJIYAMAアピール
 - スポンサーフィーの向上のための観客囲い込み